

第2回 鳴子温泉地域学校統合に関する合同検討委員会 報告書

開催月日	令和3年10月21日(木) 午後7時00分～午後 9 時30分
開催場所	鳴子公民館 研修室3
出席者	<p>●鳴子温泉地域学校統合に関する合同検討委員会 委員 17名 鈴木顕(鳴子小 PTA), 及川加菜恵(鳴子小 PTA), 早坂利成(鳴子地域づくり委員会), 高橋日出夫(東鳴子地域づくり委員会), 阿部富士子(東鳴子地域づくり委員会), 戸部直美(中山地区コミュニティ連絡協議会), 伊藤沙織(中山地区コミュニティ連絡協議会), 松田早苗(川渡小 PTA), 高橋鈴穂(川渡小 PTA), 遊佐洋子(川渡地域づくり委員会), 濱田澄子(川渡地域づくり委員会), 大場雅和(鬼首小 PTA), 大沼明博(鬼首小 PTA), 高橋幹夫(鬼首地域づくり委員会), 大沼幸男(鬼首地域づくり委員会), 高橋慶行(鳴子中 PTA), 吉田真裕子(鳴子中 PTA)</p> <p>《欠席者》委員1名 遊佐直行(鳴子地域づくり委員会)</p> <p>●事務局 7名 教育長:熊野充利, 教育部長:宮川亨 教育部参事兼教育総務課長:宮野学, 課長補佐:久本裕 主幹兼係長:鈴木健, 主査:佐藤章(欠席), 主事:平山泰揮 学校教育専門指導員:玉水透</p>
概要	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 教育長 熊野充利</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 資料説明 鈴木説明(鳴子温泉地域保護者・地域づくり委員会等意見交換内容, 学校再編(統合)の考え方, 小中一貫校近隣先進校の事例, 義務教育学校のメリットとデメリットについて)</p> <p>5 意見交換(○:委員, ⇒:事務局)</p> <p>◇高橋委員長(東鳴子地域づくり委員会)</p> <p>○資料1の内容について確認したいのですが, 川渡小 PTA だけが行政区ごとに座談会を開いているようですが, 他の小学校区ではなぜ開かれなかったのか理由を教えてください。</p> <p>⇒当時の担当から伺ったわけではないので推測になりますけども, PTA への説明会を行いたいという場合には, 基本として PTA 役員会, 総会が開かれる際に, こちらから説明させていただけないかと学校, PTA に打診するのが通常の流れで, 例えば, ●月●日に総会があるのでそ</p>

らでお願いしますとなれば、実際に伺って説明させていただくことになります。その中で、各地域での説明もしてほしいと要望があればその形に合わせて説明会を実施している形になりますので、ご指摘いただいた件につきましては、当時の資料を確認したわけではないのですが、要望があったことによって各地域での説明会を実施したのではないかと思われまます。(鈴木)

○裏を返せば、鳴子と鬼首地区については、その要望がなかったということでもよろしいですね。

⇒そうかと思われまます。(鈴木)

◇高橋委員長(鬼首地域づくり委員会)

○小学校の統合については、前回の合同検討委員会、各地区のPTA等の話し合いで、概ね合意は得たと思う。それをどこにもってくるかということ鳴子とか鬼首という話で皆さんから不安の声があり、鳴子中学校も川渡なので、そこであればやむなしという話で皆さんそこまでは賛同していると思う。それでここからの入りを間違うと大変だなと思っている。指針に基づいて、小中一貫校の可能性を探るとありますが、今までの説明を聞きますと教育委員会で小中一貫校として進めていくんだということであれば、なぜ古川北中は一貫校にならなかったのかということもありますし、高倉など古川西部地区もそのように進めないのか、私が推測するのは、生徒数が少なくなって、偶々鳴子中学校の教室が空いており、しかもそこに小学校をもっていけば小中一貫校になるのではないか、おそらくその可能性を探れと指針で言っているのだと思います。その当時から生徒数の推移をみれば必ず空き教室がでるということで、であれば前回の話の中でまだそれが決まったわけではないのにその可能性を探ると、市教委で既に決定事項にしていらないと思いますが、前回の話し合いででてきた現在の川渡小学校の周辺、そこには幼稚園、小学校があり、放課後児童クラブ、学童保育については、地域全体がお互いに市と申し合わせしてそういう事情であれば我々がやりましょうということでもやっています。なぜ今の川渡小学校のところではだめなのか、今の鳴子中学校から放課後児童クラブ、学童保育に通うのに川渡公民館まで来るとすれば、先ほど車で行ってみたが、鳴子中学校から道路に出るまで400m、信号機まで600m、そして川渡公民館までになると1.2kmほどあります。私たち大人でさえ冬場になれば、橋の上などそこまでは絶対歩かないと思います。ですから、そういうところを色々やってみて、それでも今の鳴子中学校のところに小学校が入ったほうが良いというふうな話し合いをしてお互い納得しなければ、話の入り口を小中一貫校としてしまうと、後々大変になってくるのではないかと心配もしています。私が一番望ましいと考えているのは今の川渡小学校に建てることです。空きがあるから小中一貫校にすると捉えていないと思いますが、それが素晴らしいものであれば他の学校も小中一貫校にしていはずだと思ひまます。

○小中一貫校と義務教育学校について、小中一貫校は義務教育ではないのか端的に違いが分からないところもある。小中一貫校はやり方がどうでも良いようで、小中学校にそれぞれ校長先生を置いているようです。

色麻は色麻学園となっても、色麻小学校、色麻中学校がちゃんとあって、実質、小学校の校長、中学校の校長がいて、ただしその跡地については実際に行ってみたのですが、コミュニティセンターかなにか地域で使うような体育館だけ残っていて後は分譲しています。ただ、今の学校の中で校長先生が2人いますけども職員室はひとつのようで、やっていることはまったく別々のようです。これが義務教育学校になれば、校長が1人、そこに副校長が入ってくる、そして教頭がいて小学校担当か中学校担当かわからないですが教員がいて、一緒になっていろんな行事から話し合いをするというような流れでいくのだと思います。そうしたときに、今この鳴子地域でまず建てる場所が現在の鳴子中学校でいいのか、それとも今の川渡小学校のところがいいのか、そのあたりの話が全然出てきてないと思います。鳴子中学校で小中一貫校という話ばかりで洗脳されているというわけではないですが、既にそちらに向かって話が進んでいるのではないかと懸念しています。皆さん理解の上で鳴子中学校でということであれば問題はないです。

⇒小中一貫校、義務教育学校というところですが、当初は、先ほどご説明したとおり、鬼首を除いた小学校の統合をして鬼首は小規模特認校という流れだったのですが、鬼首に道路ができたので3校一緒にとという形が望ましいのではないかとということと鬼首地区の保護者の方も統合については、特段の反対意見もなく致し方ないということでご意見いただきましたので小学校の統合という話になっていたと思います。(鈴木)

○そこまでは皆さん共通認識でいると思います。ただ、スクールバスは新しい道路を通ってないです。

⇒中学校も一緒にとということについては、先ほどのご指摘どおり、もちろん施設的に広いところがあるというのも一つの理由としてあります。また、小中一貫校にすることによって、資料でもいくつかご紹介させていただいたような児童にとっての利点が大いではないかということがあります。先ほど高倉ということでお話に出ていたと思いますけども、現在、古川西部地区の高倉小、志田小、西古川小、東大崎小、古川西中での統合を義務教育学校として協議を進めているところで令和5年度4月から新たな学校が誕生する予定となっております。そういった流れのなかと教育課程の新たな制度の導入という形で、義務教育学校として学習指導や生徒指導において互いに協力する利点が大いということからそちらを推奨しているということもございますので、そちらのほうでやっていければいいのではないかとという形での教育委員会での考えとなります。ですので、必ずというわけではなくそちらのほう望ましいのではないかとということでお話を進めている形となります。(鈴木)

⇒古川北小学校については、既存の長岡小学校の改修をもって概ねそこで大丈夫だという結論となって小学校と中学校がすごく近い場所にあることから、そこでできるだけこれからの時代ですので、連携教育を進めようというイメージです。これも言葉のうえでは一貫教育という中身で、連携型、併設型、校舎一体型の3つがあります。その意味での併設みたいな連携のような、幼、小、中の連携をみんなで模索して良い学校にしていこうということとなって、既存の校舎を改修し、特別支援の子どもたちが増えてきていたりもしますので、校舎を増築してそこにエアコン

を入れたりさせていただきながら取り組んでいったというところであり
ます。古川西部地区については、4つの小学校のどこというよりかは、中
学生が古川西中に通っているという流れから、現在の中学校に小学校
が入ったほうがいいんだというそれを望むという結論となりました。小
中一貫教育については、まだ皆さんなじみのないものですから、ご意見
いただいたように義務教育学校との違いはなにかというのでもあると思
いますので、こちらもできるだけ詳しくご説明させていただいていると
いう流れになります。義務教育学校は制度上の名前で、例えば鳴子義務
教育学校と呼ばれてもいいですし、小学校でなにかあるときには鳴子小
学校というくくりで使えますし、中体連に参加するときなどは鳴子中学
校と言えばいいわけですから、あくまで制度上のものになります。そし
て、今中一ギャップとって小学校と中学校があまりにも違うのでうま
くなじめない子供たちが多くなっており、そのギャップを解消するた
めにこの制度は実際に導入している学校において非常に良い成果をも
っているという流れになっております。校長は1人になりますけども、副
校長をおきます、教頭は2人いて、主幹教諭をおきます、養護教諭も2
人となり事務の先生も複数になる予定で、そういう学校を制度上うまく
利用すれば、もしかすると今までの欠点を補える教育ができるのではない
か、もちろん5、6年生には全ての教科とはなりませんけども、教科担任
として教員を普通の学校より多くもってこることができる。それが普通
の小中学校であれば、制度上の縛りがあるので、学級数に応じた定数で
しか教員の数はもらえないこととなっており、私たちはそのことを加配
と呼んでいますけども、その教員を余計もらえることがこの制度の利点
の一つとなります。したがって、教育委員会としては、できればこのよ
うなメリットを使えるのであれば、利用したほうがいいのかという
思いで皆さんにご説明させていただいております。なんでもわからない
ことがあれば聞いていただきながら、また、私たちも勉強しながら取
組んでいきたいと思っております。(教育長)

◇鈴木会長(鳴子小 PTA)

○前回の検討委員会は欠席してしまい、資料を送っていただきありが
うございました。その時には小中一貫というのがなかったので、今この資
料を拝見して正直、面をくらったところであります。教育長がおっしゃ
っていたように加配ということも初めてお聞きしましたし、古川西中、古
川北中のお話もお聞きして、例えば、古川北中は小学校が近くにあるこ
とから3通りのやり方があるうちの一つを選んで進めていったというこ
とであれば、川渡小と川渡中を考えたときに距離的なことを踏まえると通
学ということにおいて問題はありますけれども、一体としてやっていくこ
とはできないことなのか。川渡小界隈の施設が充実しているというのは
皆さんご存じのとおりだと思いますので、そういう意味でも捨てるがたい
というのはあります。ですから、金成、色麻、閑上のようなよその話ではな
くて、古川西中や古川北中、あるいは同じ問題で松山、鹿島台でもで
てきていると思います。メリットだけじゃなくデメリットも含めて。やはりお
っしゃっていたように補助が必要な子どもたちが増えてきているという
のは我々も実感してきているので、それが中学校と一体することによ
っていいことなのか悪いことなのかというのも心配しているところです。
そういったことを補っていくのであれば、小学校のなかだけでやってい

ったほうが子どもたちも落ち着いて学べるのではないだろうか、もちろん中学校のギャップというのがあるのかもしれませんが、それこそ先ほどご説明いただいた一体化で解決できないのか、いろいろな方法をお示しいただいたほうが皆さん初めて見た話みたいになっているので何かしらご案内いただくと助かります。

⇒前回の検討委員会でも小中一貫というのはご提示させていただいて、そのうえで先進校の事例が欲しいということで、今回の資料となっております。(鈴木)

◇高橋委員長(鬼首地域づくり委員会)

○今のお話は、もう小中一貫校に進むという資料ではなくて、その選択のための我々の勉強資料が欲しかったということです。小中一貫校にすればどんなメリットやデメリットがあるのかアンケート等で聞いてもらって、それに基づいて我々がこれを判断する材料としてとってもらえればいいです。小中一貫校ありきではなくて、その可能性を我々が検討していくわけですよ。

○現在、色麻学園は義務教育学校ではないので、小中学校それぞれ卒業式があると思いますが、その良さを否定しなくてもいいのではないかと私は思います。卒業式があることで、5、6年生が張り切って今度からはすごいところに行くんだという自分の希望がありますよね、以前教育長からお話があった立志式、1/2成人式など学校のなかだけでやるのか地域も含めてやるのかはわかりませんが、卒業式と比べれば雲泥の差だと思います。一つの行事として捉えるのか、一つの人生の区切りとして捉えるのか、学校の先生方の現場がわからないですけども、人生の中で一つのショックとして必要なものではないかと思えます。

⇒そういう意味でのショックに相当するぐらいの行事となれば、1/2成人式を先生方、子どもたち、保護者と工夫していければと思いますし、志を高く持って生きていくという思いを大事にしていくという思いが込められた立志式とこのふたつの式に力点を置いたのが義務教育学校または小中一貫校の大きな特色でもあります。また、科学的なことがわかってくると人の成長はまっすぐ比例で成長していくのではないということ、ですから、大きな変化が起きるときに仕掛け、人の成長に合わせた学びをしていくということが義務教育学校の特徴であるのは確かです。ただ、この小中一貫教育を実施している学校も少なく真新しさがあるので、これからいろんなところが見えてくるということも確かです。実施している学校を見るといきいきやっていますし、私も豊里小中一貫校を立ち上げた経験がありますから、当時も地域の方々から意見をいただいて、説明をさせていただいていました。実際に合同の遠足など、小中一緒になった行事をすると、中学生は逆にやさしくなって年下の子どもたちの面倒を見るようになっていました。中学生にいじめられるのではないかという保護者からの声も多くいただきましたが、そんなことは全くなくて、不登校になる子もゼロとなり、暴力行為や問題行動も起きず、私自身びっくりするような結果になっていました。(教育長)

⇒まとめさせていただくと、子どもたちにとって人との関わりを大事にし

ていくには統合はやむなしであると、しかし場所については、現在の鳴子中で小中一貫校にするか、川渡を使って小中学校の別校舎とするか、少し検討を要するということでしょうか。(教育長)

○川渡幼稚園、放課後児童クラブ、学童保育のことなどこれまで出てきたいろんな課題がありますよね。それらの手立てをどうするかというのがない限りはなかなか難しいのではないかと思います。小中一貫校だけをお話して、例えば、スクールバスは学童保育を経由するのかなどこれまでの課題解決はどうなっているのかという話になると思います

⇒統合になると仮にすれば、そこで見える具体像が出てきます。そこが統合に進まないとなかなか見えてこないというのはあると思います。(教育長)

○統合というところまでは皆さん理解していると思います。

◇大場会長(鬼首小 PTA)

○鬼首小 PTA の会長として、統合は間違いなくしてほしいです。ただ、どこで小中一貫校として切り替わったのかを知りたいです。平成27年から鬼首を含め、各地域に来ていただいてご説明していただいていたことは大変すばらしいことだと思い私も感激していたところではあります。どこで小中一貫校という話になったのか不思議ではないです。小中一貫校という話が8月の検討委員会であったと思いますが、鳴子は小中一貫校になるんだってと池月の人や岩出山の人に言われ、教育委員会でもう決めていたようですとも言われて、私はわからなかったのもそんなことはないと思うと答えたのですが、教育委員会で決めていたようだとと言われてしまったので、私自身驚きがあるなか本日の会議に参加しています。

○私の妻が色麻出身で、実際に色麻学園に子供が通われているお母さんから内容を聞きました。今回いただいた資料には学校のメリットしか記載されていませんが、なかには9年間の一貫校の中で、男子で6年目あたりに登校拒否して問題をおこし学校をやめたということがあったようです。金成でも閑上でも中身として、教育委員会が大丈夫だとみなして学校を立ち上げたのか、大崎市でもそういった話が出ているのであれば、しっかりとした足踏みをして、皆さんと意見を交換しながら話し合ったほうがいと色麻のお母さんから実際に言われました。今後、私も副会長も除雪作業員なので、次回開催で雪が降っている場合、参加できない状態ですから、であれば、令和7年に統合するという事については間違いなくしていただきたいという私の意見ですが、ただ、いつから一貫校に切り替わったのかを知りたいですし、不安なところがあったので、今後でもいいので教えていただきたい。

⇒はっきりどの時点でというのはないんですけれども、今回の資料1の5ページ、幼少中園長校長館長会のところで小中一貫校について説明している部分があります。今回の資料2でお示しさせていただいた指針をお出したときに小中一貫校の流れについて興味を示す方もいると思いますし、教育委員会としても、教育課程に新たな導入をするなどそういったことも踏まえまして、流利的に小中一貫校として進めていきたい

というような検討の中の一つではございますけれども、そういった形で話を進めていきました。さらに、古川西部地区が小中一貫校、義務教育学校にするということになりましたので、そこも踏まえて、鳴子温泉地域でも小中一貫校、義務教育学校として進めていけないかと、確かに利点しか書いてなかったかもしれませんが、メリット、デメリット、両方あると思います。ですので、メリットは伸ばして行って、デメリットはなるべく解消していく形で進めさせていただけないかと皆さんにお示しさせていただいたところであります。ただ、皆さんがおっしゃっていたとおり、義務教育学校が必ずというわけではありませんので、こちらの会議において検討した結果、小学校だけのほうが良いとなればそのような形で進めることになると思います。先ほどの義務教育学校と小中一貫校の違いはなにかということに少し触れさせていただきますと、義務教育学校も小中一貫校です。小中一貫校という大きな枠があって、その内輪に義務教育学校が入るという形で出来上がりました。説明が重なるところになりますが、義務教育学校の利点は、教育課程の一部を学校によって自由に変えることができるということ。教育を進めるうえでそちらのほうが目標に向かって調整しやすいということがあります。先進校の事例で、最初に小中一貫校として誕生した色麻小中学校、金成小中学校の2校が義務教育学校に移行しているのは、そちらのほうが得られる利点が大きいのという判断のもと進められているのかと思われまます。こちらで協議する中での判断材料の一部として参考までにお知らせいたします。(鈴木)

◇高橋委員長(鬼首地域づくり委員会)

○メリット、デメリットいろいろお聞きしましたが、小中一貫校でなければできないようなことがなかなかないような気がします。地域社会とのつながり等、今の小中学校でもやっていることではないかと思う。

◇及川副会長(鳴子小 PTA)

○母親の立場として、気になるところがいくつかあります。私の子どもが幼稚園の時に、鳴子幼稚園と川渡幼稚園が統合するということでちょうどその時期にあたっていましたけれども、今回のように決まっているような状態で話を出されて、こちらでも意見はさせていただきましたが、結果的に統合となり、私は鳴子から川渡に子どもを通わせることになりました。その際に納得いかなかったことは、幼稚園バスのことで、勝手に合わさった形だったのに、鳴子から来る人はバスの料金を出さなければいけない。そのバスが出ないときや親が迎えにいかなければならない場合は、私たちも働いているので、タクシーや私の母親にお迎えをお願いしなければいけないというようなデメリットもあって、これが鬼首や今回も川渡にするのであれば、鳴子も離れてしまうことになるので、同じ問題が出てこないか心配しています。

○資料6の部分で、休み時間に低学年の子どもが委縮する可能性がないと記載されていますけれども、鳴子小学校だけかもしれませんが、放課後児童クラブで低学年と高学年の差がどうしてもあると思います。資料にはいいように記載されていますが、先生がいないところで嫌なことをされて放課後児童クラブをやめてしまう子どもも増えてきています。

小中一貫となった場合、小学生と中学生の精神年齢は違うので、うまくやっていけるのか、近年の子どもは優しいからで片付く話ではないと思います。

○自分の経験で、私は中高一貫の学校に通っていました。中高ではある程度同じレベルでいけることはあっても、小中となれば体つきや心など成長過程が全然違うので、大人がみているより意外に難しいのではないかと母親の立場として心配していることのひとつです。いくつかお話しさせていただきましたが、統合する頃には私の子どもは中学校を卒業しているので、直接かかわることはないですけども、これから関わらなければならぬ親御さんたちにアンケートを取るなり、関わらない世代の親が話してもあなたたちがそこで決めたんですよねとしかならないと思う。何かそういった機会がとれるのであれば、考えていただきたいと思います。

⇒名前的には似ていますが、小中一貫と中高一貫は別物だと考えています。特に中高一貫については、ざっくり言えば、進路や進学に照準を合わせたものになると思います。(教育長)

○学び舎は一緒だと思う。そこで関わるが増えるので、9年間というのは難しいことではないでしょうか。

⇒学び舎が一緒でも、いつでも一緒に活動するのではないので、今やっている学校を見る限りでしか言えませんが、思った以上に上と下の関係は悪くないということが現実だと思います。ただ、デメリットにもあったように9年間ダラダラ過ごすことになるのではという思いも否めないところがあります。小中一貫でやっている学校が義務教育学校に切り替わっている現実、教員の数などのメリットをいただければということだと思います。やはり現在は、子どもたちも多様化していますし、教員やスクールカウンセラーも含めまして、多様な立場の方がいるのが今の学校ですから昔の学校と比べますとだいぶ違いがあると思います。そのなかで、教科担任の指導を受けることや副校長を置くなどそういう意味での教員の数をはっきり違うというのは確かにメリットだと思います。メリットとデメリットを比べながら、鳴子にあったものを選んでいくということになるかと思います。(教育長)

⇒やり方が2つあると思いますけれども、高橋さんからお話ありましたように、皆さん統合については、前回の会議から概ね合意だということでしたので、場所として川渡に作ったほうがいいのか、それとも鳴子中に一体化したほうがいいのかという議論になりますよね。そのようなイメージでよろしいでしょうか。(教育長)

◇大沼副会長(鬼首小 PTA)

○私が今一番心配しているのは一つだけで、鬼首まで冬場のスクールバスが安全に運行できる保障がないということ。大雪になればトラックが引っ掛かり、通行止めになります。ほかの学校ではないことですけど、鬼首では現実に起こりうることで、学校で待機できるならいいです

が、走行中であればどうするか等、そういった道路面の問題や実際に起こった時の対応策をしっかりと考えていただかないと今の段階では統合に賛成と言えないです。道路状況の問題については、学校、教育委員会だけの話ではないと思うので、そういったところまで広げて、もう少しいろんなところでお話していただければと思います。

◇高橋委員長(鬼首地域づくり委員会)

○冬場の問題はもちろんありますけれども、今の鬼首小学校の状況を考えると、このままでいいかと言えばそうではないと思う。定例会等でぜひ統合してくださいと言っているわけですから、我々も含めてそうですし、これから入ろうとする子供たちが鬼首小ではなく川渡小にいれるということも出てきていると思います。

⇒私たちも計画を作ってお見せして、言われたことにはできるだけ誠意をもって応えようと、子どもたちのためには統合したほうがいいよねという気持ちを持ちながら考えてきているつもりです。確かに通学については、私たちだけでは難しいところはあると思います。(教育長)

◇大沼副会長(鬼首小 PTA)

○もちろん学校に行かなければ勉強もできないですし、鬼首にとっては通学が問題だと思う。昔は通学のバスがひっくり返ったり事故もあったので、完全に安全だということはないですけど、冬に関しては、他の地域より数十倍危険が増します。

⇒解決策にならないかもしれませんが、コロナで休校せざるを得ない学校が増えてきた時に、タブレットを子どもたちに渡して、リモートで家庭学習ができる等のスタイルが現代では出てきました。大雪の時には学校ではなく自宅で待機して学習できるようなことがこれからは増えてくるかもしれません。画面を通して先生の授業がみられる仕組みともなっていて、もちろん教員の慣れも必要になってきますが、いろんな意味で研修も行ってきていますので、これからはそういった対応にもなるのかなと思います。(教育長)

○いつどうなるかわからないことですので、そのような話を言われても止められないというのはわかりますが、それぞれのケースによつての打開策は欲しいです。

○最短で令和7年という話でしたけれども、それはいつ決まってからの話でしょうか。

⇒どっちの学校にするかによってだいぶ違ってくると思います。それからこの検討委員会がもっと回数を重ねていかなければならないとなった場合でも違ってくると思います。皆さんの合意を得てというのは難しいですが、まずは会議に参加いただいている委員の方々からの概ねの合意をいただいてから進めたいと考えています。(教育長)

○8月に会議をしてからコロナの影響もあって学校のなかで地域の方々の話ができいていません。正直、代表としてきていますが、個人としての意

見でしかないので、これから地域の方々と話ができる機会ができてくるかわかりませんがもう少し時間をいただきたい。

◇高橋会長(鳴子中 PTA)

○先日、市町村をとおして「合同検討委員会ニュース」が配布されていましたが、そのなかで小中一貫校と書いてあったので、地域では小中一貫校になるのか統合ではなかったのかという話になっている。先ほど高橋さんからお話があったように、学校の造りもそうですが、15年前に鳴子中学校を創設したときから既にそのような構想だったのかと思わざるを得ないということが現実として見受けられる。

○資料1の8ページ、「統合に伴い、学童保育はどのようになるのか」という意見に対し「岩出山地域では、各地区に学童保育があり、統合後も運営していただくよう運営委員会にお願いし、継続して運営していただいております。また、学童保育の利用者のため、下校時のスクールバスの停留所に各地区の学童保育を加え、運行しております」と回答している部分がありますが、先日の会議のときにそのようなことは考えていないと話がありました。おそらく、鳴子中学校に集めるという部分で2kmの壁があるからやらないということなのかもしれないが、小学生を冬場に歩かせるのかなど子どもたちの安全を十分に考慮したうえでスクールバスの運行を考えていただきたい。

○小中一貫校の資料をたくさん用意していただいてありがたい話ですが、本当に聞きたいのは大崎市内の小中学校が統合したときのメリットやデメリット、今の状況の話資料として提示していただきたい。他の市町村のことで同じ内容になるのかと思いますが、大崎市教育委員会が携わっているものになりますので、その管内での話を伺いたい。

⇒学童について、致しませんという形での発言はしていなかったと思いますが、例えば、ここで挙がっている岩出山地域の場合、資料のとおり各地区にバスが来ているということです。前回の時に提案されたのは鬼首地域には学童がないというご指摘がありましたし、川渡の学童に連れていく際2kmを超えない子どもたちはバスに乗せないのかというご指摘もいただきました。そのなかで学童については統合すると決定してから関係課と調整していくため、今の段階ではお答えできませんと回答していたと思います。可能性として現在の学童保育にバスで送迎するのか、または中学校に学童保育を作って一つにまとめて預かる方法などいくつかあると思いますので、統合となった場合にさらに詳しく検討していきたいと考えています。(鈴木)

⇒参考までに古川北小のことになりますが、「大崎市タイムス」「広報おおさき」にも統合後の子どもたちの感想として載っていた記事をお目にした方もいるかと思いますが、そのなかで子どもたちから、やはり同級生が少なかったということもあって「授業でいろんな意見を聞くことができた」、「昼休みにサッカーやキックベースができるようになってよかった」などの意見がありました。もちろん統合したことで、不安を抱えたり委縮している子どもたちもいるかもしれないが、今後見守っていきたいと思います。(鈴木)

◇高橋委員長(鬼首地域づくり委員会)

○私も北中は良かったと思う。前から4つの小学校は親も含めて交流があった。いつでも統合してもいいという蓄積があったと思う。

○北部の場合は、宮沢の昭和タクシーや清滝の第一観光の広告、予算を見るとスクールバスに3億4,5千万かけていると思います。統合する際にその程度の金額がかかるわけですから、今回は鳴子中学校の空き教室を使えば財政的には経費が掛からなくていいのかなと思う。今の小学校を色麻のように宅地分譲して売れば財源が入るなど、いろんな面を考えたときに本当にそれでいいのかなと思う。

○これをやれば何か叶いませんといい点を話し合っていないと全ての物事ができてから後回しでは、皆さん理解が難しいと思いますし、今後どのように進めていけばいいのかと思う。

⇒こちらも皆さん納得して進めていきたいと考えていますけども、納得の持ち方が人それぞれ違うのでいろんな意見を大事にしていきたいと思っています。(教育長)

⇒今後も検討委員会を続けていき課題解決に努めていくのか、しかし、統合するかしないかがわからないと具体的などころでの話し合いができないことから、統合の合意をいただき具体的に話し合いを進めていったほうがいいのか、この2つのやり方があると思います。(教育長)

○統合については良いと思う

◇鈴木会長(鳴子小 PTA)

○小中一貫は別として、統合には賛成している。

◇早坂(鳴子地域づくり委員会)

○統合には賛成で、同じ箱の中に入れるのは反対です。

◇高橋委員長(東鳴子地域づくり委員会)

○統合に賛成。小中一貫校でいいと思う。

◇阿部(東鳴子地域づくり委員会)

○前回までは、小中一貫もありかなと私の中でも迷っていましたが、川渡の周辺は子どもたちにメリットのある環境が整っているということを考えるとそちらもありかなと思ったり、先ほどの話にも出ていましたが、冬場に限らず橋を渡るというのは非常に危険なことです。強風がすごいので小さな子供たちが歩くというのはデメリットなことだと思います。

○統合して小中一貫校を川渡に置くには敷地が狭すぎる。鳴子中に小学1年生から過ごすには校庭が遠すぎる。人目が少なく死角がある。

○前回資料で生徒の人数を見ると、令和7年度に小中学生180名でスタ

トするのか、小学生97名でスタートするのかそのあたりをもう少し詰めていただきたい。親御さんたちも開校まですごく神経質になっているし、想定外も開校してからあり得ると思うので、それを少しでもなくしてあげてからの令和7年のスタートであり、この学校に預けてよかったという意見が多く聞かれるように考えていただきたい。

◇戸部(中山地区コミュニティ連絡協議会)

○阿部さんが言っていた意見と同様です。

◇松田(川渡小 PTA)

○私には3年生の息子がいて川渡駅前に住んでいます。小中一貫校として鳴子中学校にもってくるという話でしたが、息子が一度宮城交通のバスに乗り遅れて川渡小から川渡駅前まで歩いて帰ってきたことがあります。3年生の男の子で35分ほどかかりましたし、地下道が真っ暗なのでとても怖かったと言っていてできれば通りたくないとも話していました。統合については、人数も少ないためまた3つの学校が一つにまとまることによってお話にもあった加配というのがなされるのであれば、統合はやむを得ないと思っている。今までは小中一貫校で中学校に入るものだと思っていたが、今回の会議に参加していろいろな話をお聞きしたなかで、まずは小学校のみの統合として、何年後かにさらに人数も少なくなった時に改めて小中一貫校について考えるのはどうだろうか。

◇遊佐(川渡地域づくり委員会)

○前回の会議で確認しましたが、皆さん統合については致し方ないから賛成ということでした。それを前提に今回参加しています。私は子どもがいないのでいろんな会議に参加していませんけれども、小中一貫というのは前回の会議で初めて聞いてびっくりしていて地域づくりのほうまではその話は届いてなかったです。小学校の統合は本当に仕方のないことで反対意見はないのですが、鳴子中学校のなかに小中一貫とするのは無理があるかなと思うところがあり、いただいた資料を拝見してのことでしか言えないんですけれども、校庭は職員室から目の届くところが望ましいとかプールのことなどいろいろ書いていますよね。令和7年に向けてこれから検討していくことだと思いますが今の私の気持ちとしては小学校のみの統合が先だと思います。

◇濱田(川渡地域づくり委員会)

○平成30年に川渡地区で住民説明会があり、その段階で既に統合をしたということと小中一貫校を目指しているという話があったと思います。平成30年に行われた内容が全く住民に説明がなかったのも、皆さん受け取り方がバラバラになっているのかと思います。私としてはそのような認識でいたのでこの場でまた原点に戻るような発言が出てきていることにびっくりしていて、地域に戻って話し合いや説明がなかったのかと思っていました。それから資料1の8ページ学童保育について、川渡学童保育は川渡地区公民館で運営しておりとありますが、公民館ではなく母体は地域づくり委員会でこちらを軸にして、川渡地区学童保育運営委員会をつくって運営しています。また、鳴子は小学校校舎に学童

があるとありますが、学童ではなく放課後児童クラブというもので大崎市が直営している制度です。放課後児童クラブの場合は月3千円費用がかかり、学童保育は大崎市から補助金をいただいて運営しているので保護者の負担は現状川渡においては1千5百円になっておりますので混同しないようにお願いします。

◇大沼副委員長(鬼首地域づくり委員会)

○今日は課題が明確になったのではないかと思います。皆さんからいただいた課題が可能なのか。例えば、鳴子中に全学年入れることはできるのか、施設を増やす場合、面積は大丈夫なのか等、できる限りまとめていただきたい。

○国道108号線の冬場の問題が提示されましたが、確かに毎年通行止めになります。私も国道108号線の整備促進期成同盟会の事務局をやっております、只今改良していますけども、着手しやすいところでの拡幅工事で話に出てきていた場所は最も難しい箇所になります。大変難工事が予想されますが決してあきらめているわけではないです。ただコロナの影響で東京に行って交渉することはできていません。その問題を改善していくためにもこの会議でこのような問題が出されているということをも市長部局にも伝わるような形をとっていただきたい。

◇吉田副会長(鳴子中 PTA)

○「合同検討委員会ニュース」を見たという方から話を伺ってきました。小中一貫校ということで皆さん想定していたので、誰が言いたしたのかはわかりませんが、そういうものだと思いついていました。スクールバスについては皆さん配慮していただきたいとのことでした。私としては、統合に賛成です。川渡小学校で統合するのか、鳴子で小中一貫校にするのかという点については、川渡小学校の場合も、小学校から児童館に行くこと、郵便局に行くまでも危ないと思います。統合したら人数が増えるので、子どもたちの安全を確保するという意味では、危険かなと思います。それから橋を渡って児童館の裏を通りますが、草がすごく生えていて、そこは月1回地域の方たちで草刈りをしています。そういう意味では地域の皆さんの協力を得ているだけじゃなくて、通学路の確保をお願いしたいです。

⇒具体的なご意見いただきましてありがとうございます。皆さんの意見を集約すると概ね統合という方向でいいのかなと思います。吉田さんからいただいたような具体的な細かい意見は準備委員会のなかでひとつずつ誠意をもって考えていきたいと思っています。またいろんなアイデアをいただければと思います。それでは統合という方向でどちらにするかはこれからの話になりますけども、準備委員会という形で組み立ててそのなかで話していくというのはどうだろうか。

◇高橋委員長(東鳴子地域づくり委員会)

○私たちは準備委員会の前提の検討委員会という形で依頼を受けております。準備委員会は新たなメンバーで構成されるということでもいいのか。

⇒統合準備委員会の構成メンバーは、各地域づくり委員会から代表者1名、各学校 PTA から代表者1名、そして各学校長が入って構成されたものになります。また通学部会、総務部会、学校教育部会があり、通学部会については、PTA の方が2名ずつ、学校教員が1名ずつ、という形で構成しています。学校の通学に関することなのでこちらの部会には地域づくり委員会の方は入っておりません。総務部会については、PTA の方2名ずつ、各学校の教頭先生方が入って構成されています。地域づくり委員会については、現在、統合準備委員会に代表者1名ずつということでご協力をいただいています。このまま引き継がれるのではなく新たに推薦をいただくような形でこちらからお願いすることになります。(鈴木)

○予定とすれば、準備委員会は統合するまで間ということになるのか。今の流れでいけば、3年間は続いていくということか。

⇒今回の例であれば、令和7年の統合を目指して準備委員会、各部会で準備してすり合わせをしていくというような形になりますので、準備委員会を立ち上げる際は、統合という目標を掲げていることになります。古川西部地区については、当初令和4年4月開校ということで準備委員会を立ち上げました。諸般の事情により現在は令和5年4月開校としており変更も可能ではありますが、いずれにしても立ち上げる際はいつまでに統合するのかを設定することになります。(鈴木)

○要望として、今回、放課後児童クラブの話など各方面での意見が出ましたが、それぞれの担当の方などを準備委員会のなかに入れることはできないのか。

◇高橋委員長(鬼首地域づくり委員会)

○それは難しいのではないだろうか。話し合いのなかでそのような案件が出たときに必要であれば担当課に話を通すほうが現実的ではないか。

⇒古川北部、古川西部では、検討委員会を設けて一定程度の合意を得た後に各学校での説明会、各地域に入っの説明会を行っており、そこで概ね合意をいただいたというところで、統合準備委員会に入るということをご理解いただいているところです。鳴子についても同じような流れで進めていきたいと事務局では考えています。皆さん統合はやむなしということで概ね合意をいただいたところではありますが、ただ、小中一貫校とするのか、例えば、川渡小学校を基幹校とするのかといった大きな流れが決まらないうちに統合準備委員会に移っていいのかと考えているところです。(部長)

◇鈴木会長(鳴子小 PTA)

○それを地域に説明する場がなかった。濱田館長さんからお話ありましたが、私たちは知らなかったです。

⇒平成24年に教育委員会で、「大崎市学校教育環境整備指針」をつくりました。この指針のなかで、鳴子温泉地域は小中一貫として検討すると

ということがありましたので、教育委員会では平成26年頃から保護者の方、ご要望があれば地域にお伺いして説明してきたところです。(部長)

◇早坂(鳴子地域づくり委員会)

○中山小学校が統合となり、それから何年か経過して、話が出たときは統合の話はしていましたが、小中一貫については選択肢の一つであって、まずは統合とのことでした。しかしそれもたち切れとなってまた新たに今回の話が来ました。前任者から鳴子小学校はスクールバスのこと等、色々な条件を考えたときに難しいのではないかということをお話されていたので、そうであれば川渡小なのか小中一貫なのかと考えたときに、小中一貫の定義として距離はどのくらい離れていたらだめなのかなど詳しく聞ければと思う。ですので、必ず小中一貫でそれしか選択肢がないということでは説明は受けていません。

○統合は何年くらいかかるのかと聞いたときに、まず場所を決め、入札が入り設計図が出来上がるので、決まってからも5年かかるとの話で理解して、保護者の方々に説明していました。今回の話が来た時に全然話も聞いてないのにそんな乱暴な話があるのかと思っていました。

◇高橋委員長(鬼首地域づくり委員会)

○この指針は、学識経験者などのなかだけでの話となってしまったのか。大崎市とすればその指針がある以上それを行わなければならない使命もあると思う。しかも鬼首小学校の小規模特認校はどんな働きをしたのか、広報に載っているところも見ることがないし、どこでこれがなくなって、ある意味突然鬼首小学校は統合に入ったので、鬼首は除くとなっていたのに。統合校の場所を決める際は建設委員会で決定するのか。例えば今の鳴子中に小中一貫校をつくるという方針が決まってからこれを建設委員会で検討していくことになるのか。

⇒今までの流れでは、例えば、統合はどの形がいいのか、小中一貫で鳴子中にするのか、または川渡小学校だけで統合するのか、大卒の道筋が決まったとします。仮に小学校だけで統合するとした際に増改築は必要かまたは改修が必要か、児童数などいろんな観点から判断し、一部改修、大規模改造が必要であれば教育委員会から建築住宅課をとおして参考の見積もりを出しいただき、それから庁議にかけ、了承が下りれば予算化して準備委員会を立ち上げていくという形となるので、建設委員会にかけているわけではありません。(鈴木)

⇒大筋の方向性を検討委員会で決めていただき、保護者の方や地域の方に説明していきたいと考えています。統合準備委員会を立ち上げる際には、結局どの学校を構成して統合を目指すとはっきり明記するので、小中一貫にするのかしないのかあやふやな状態で立ち上げることができませんので、大筋の方向性を決めていただきたい。(鈴木)

⇒今回、具体的な話が出たので、事務局で一度整理をさせていただきたい。今回の意見を踏まえた資料をもう一度作らせていただいて、合同検討委員会開かせていただき提示しながら、またご意見をいただくという

ことにしたいと思いますがどうでしょうか。

○(委員異議なし)

6 その他

事務局より費用弁償及び傷害保険に関して、まだ口座登録依頼書を提出していない方については、会議終了後に提出していただくこと、また本日お持ちでない方については電話で確認する必要があることを伝える

7 閉会